隻輪奇談

巻之八

へ13
3383
8

へ 13
3383
8

谷森蔵

扁古物語 巻の八

目録

一 水谷羽石蕃士丸傳の事
一 名馬田野黒の事

大正十八年
本大學出版部
贈

寛文雑記巻の八

多賀谷弾正左衛門の事

加賀一向宗の士三百人
河北郡
宮腰
金沢
高尾城
[illegible]
[illegible]

其(それ)しが呆然(ばうぜん)と手込(てごめ)にして打擲(ちやうちやく)し
去る者ども不法(ふはう)ものゝ申し縄(なは)
其(そ)ち狼藉(らうぜき)しあかし剣(のし)をつて一時(いちじ)に責(せめ)立(たて)
寄(よ)りつくりつ引(ひき)倒(たふ)し踏(ふみ)つ打(うち)あり
蹴(け)倒(たふ)しつきみふ打擲(ちやうちやく)しられば
母(はゝ)と妹(いもうと)は驚(おどろ)き恐(おそ)れ泣(なき)叫(さけ)ぶ
弟(おとゝ)面白(おもしろ)し迚(とて)も縄(なは)かけ捕(とら)へて侍(ばうじや)若
無人(ぶじん)りし違(ちが)ひしあんときると母(そ)て

押隔(おしへだ)てとかんとし心(こゝろ)して矢猛(やたけ)しう
思(おも)へどもかなはれ女(をんな)の力(ちから)及(およ)ばれ
下女(げぢよ)下男(げなん)も見(み)えて居(い)られざれば
押留(おしとゞ)めんとしまれば打(うつ)ぶまくらまし
手足にすしあり頭(らう)し脚(まけ)は衣服(いふく)と
引裂(ひきさき)れ乱暴(らんろう)しとなりつさても
悲(ひ)歎(たん)の絶(ぜつ)しりえてありを知(し)るは
ちの羽石(ひそし)の讒(ざん)書(しよ)三人泣荒(らめろうず)て園に

咲をかさね此方しばんだみるに
いみにもしが唱舞し笑て河毛の
もやし嶽集の人と押し
此頭つ咲もて能しみる知是
蓬子の家の篤士上崎歌卿さん
しどう赤坂のれ劉さく妹の
勝笑洞も理のみとし阿しめんと
まる緯なしが篤くよき河きも

紀里合の歌卿むぜんなる緯毛経
発しし此三士一根櫻嫁桐よして
嫁もじむさんなれと鋼もむ
緯の意の谷の篤士と云てり劉し
或ひしも根むしし大竜しあへて
御ききるくと歌卿河人なや
しぬんれが羽石が篤士仮村
三郎片山友瑞椰邦卿

なを見て各〻方の作者志願の
なりと一礼して迎へまるを押
出て上座に着し早速所望と言葉
を掛れば長右衛門出て
候と言ひながら座を退き
毎度世話と下女饗と呼び立て退き
歌仙巻かれ申候
会を設け村雨軒西
如申祝儀を述べ
なる所作事
を早速
事なれば
早速
所と言葉
相石の
一上

三士に敵家を走さがしつくし
必死引返し来るあらんと力足を
踏ならしやしく待ゐたる所
東のかく一ノ谷の藩士又人一同に
力を極め攘つれしく三千軒の表紙をと
返さんとして切らしく挑むる其めしまれ
持ろ鉢巻寺岡輝磯波大郎作
田島十吉百瀬保八丹波右内

鶴見加一郎笠是抑雲壁の
藩士縦村三郎仙に磯波大郎作
と鶴見加一郎の女人に向ひ
行山反勝に田島十吉百瀬
保八の女人と引廻榊郡隔に
丹波右門に廻る合しはれ
三人にかしこを戦ひするも
牛を切先より火花をちらし

恐しき髭を声とりけ合をつく
一上一下秘術をつくして切を結ぶ
懐しく鳥頭もつくかれてを丑の時
群集をしはなれんの人しきりや
草の話をしばらく逸話して怪我
まかしかまてかたまりなりて又して
珠しくれ柳そしけ揃ひのからんや
古茂しくしり天日をきしやと遠く

満てくゞんて出る人くしも首なるを
時しり羽石りしい飯村三郎物は横の
古人かは小楠しる花波稽古を
栖ゆしくして聖しを鶴の如く飛び隠い
まかを旗の怒しくして作人なる
鶴ひして兜剣なりし思ひ一声
喉んぐまつ早割するの割と切迹
しかを鶴んしも同じを去早うし

知くる夕と波村雲らそと飛と
かとしく捨しく舟しく女人遥と
ふるく櫂の音しく櫂をはくぐと
波付浮とと陸らうら花潮と
賀雲しう知くう高しく近人かよ
弱ふと胴知とよ蓋の紅そ赤ざ
はじくれ紫力しと又片山高指
女力と山くと田ふる石瀬と虎ふよ

り紅勢を戦しく白色十吉
いらくく赤はと高と結塩じ
屑ふと武す和先と寒き
しぶ無沙暇しく帰を事
結とじ三早鶴ちとや
鳥ひふ女力と投つは近人
モ力石瀬浜八が右の見く高を
猪と下と浜を知きしば

諸くのあつくかばし炊田楽い
踊り上りく是ば連れ片山ば
坂ひ討んと尺片山左衛門神を
左しが修ちんぞつくしを
倒れしくを浮をとし田楽とねと
土浪しく擒くりく片山腰
一口しおらきんとてくる尻
仮村三郎助が息の如を欠来を

田楽十兵衛うしろよりまかう仲割
ぎんくとしと割手しを出会て
海い柳郎し助に丹波右門と
良ぎどしを挑を観ひしが如く
郎し助に右門を切刎しくを
すかるともそ刑も二三寸刎詰みと
居ひしを苺片山左羅し居留の
不情慕しじ仮をりしが仮村是ば

今堀　郷　俣三世田野
堀　原　おのれ　宮原
川　江　又　事の
時　中　ゆいしろ　所　事　も
もの　ち　西石の　姫　太郎　汲
弓　馬の達　そ　張と
掘　ち　ひ　秘　り　名馬
田野　黒　り　望　馬七八駄

雑事　れ　出
下の事　所　見　て　頃
り　出　頃　田　と　見　も　頃
境　所　陸山の　禁　り　廉　特　有　れ
酒　ひ　り　ち　れ　蔵　姫　ち　て
よ　り　毫　廉　姫　結　ま　し　丈　西
祝　浮　れ　綾　く　時　刻　と
年　り　傾　れ　堀　下

より三里斜にあたる日岸も
雲禅寺とて寺院多く
小治をあはれしが洲涮して久下田郷も
入るゝ交も郡原郷あるは東上下とも
洲このもと年要々と出ひ田野黒の
馬まも草々と飼よろく蒼まそしげ
むかしを忍ん律縁々とまろて
別出しゆを供人留めはぞれ

小馬が別ひきるぞ押くよ喜よと
立残ぶ面しあを闘しり馬を先まを
りん陰の八すしろ勝る若馬あるが
轡まししぞひつりける音の
そや早聞事矢の如し牛し雑の
手ふし及ぼし山くと臨んで合ん
行狐しきやっと脇もえん
ありしけを

名馬田野黒の事

さて俵人の面々と家じて
聞乃初発なる田野黒と云迄
ちくと御神馬なれども
深況当の時なる黒代屋迄
旨ぎんが行ぐ近士り
面々迄ひらけんとする

時太郎殿早速と言ん
然留なるんと
ひしと頼ぶる郎と
殿様様人なの白
ひぐ黒思れ迄黒の士と云
郎ちと上ぐと行
為門ちと上ぐして降参
田野黒の沙馬

かいまへく[illegible]しかけし[illegible]
唯[illegible]おひ[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]らず
中く[illegible]ひ[illegible]しく上[illegible]れど
太郎ちひしらみ[illegible]の[illegible]
なし[illegible]ある事どもあり
[illegible]の馬は天下の名馬や[illegible]も
つけ[illegible]ひけるといへし一つの[illegible]と

もて[illegible]はいける人の手[illegible]
いふ[illegible]今[illegible]らんとて[illegible]
あし[illegible]ひ[illegible]く[illegible]事[illegible]る
[illegible]ば[illegible]事[illegible]あり
[illegible]と[illegible]さし[illegible]
ありん[illegible]由[illegible]野[illegible]は[illegible]
[illegible]り[illegible]ある[illegible]とて[illegible]の
駒[illegible]鹿毛馬[illegible]

[illegible]城をとられしが[illegible]田野黒と
[illegible]城田[illegible]矢[illegible]願[illegible]
とられ[illegible]田の黒の馬と
雲[illegible]寺[illegible]
久下田源の四郎と組ちぶし
源[illegible]黄[illegible]の事[illegible]が
青[illegible]と[illegible]遣[illegible]
[illegible]の所[illegible]

[illegible]百姓[illegible]大ひふ
[illegible]黄[illegible]と声[illegible]て
[illegible]馬[illegible]
[illegible]の耳[illegible]行を
[illegible]事[illegible]
[illegible]百姓[illegible]遣
[illegible]黄[illegible]と
[illegible]地[illegible]遣[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]を一人の大男
[illegible]ぐ[illegible]と歩み[illegible]を[illegible]しぶ[illegible]
[illegible]を馬の[illegible]を[illegible]ばんく
[illegible]を遠くよりて大[illegible]を[illegible]げて[illegible]を
[illegible]を通りを[illegible]し馬を[illegible]して[illegible]を
[illegible]と彼の大男[illegible]を[illegible]を
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
村[illegible]の[illegible]を[illegible]をいかゝの

[illegible]ものどもが[illegible]ふ[illegible]く
[illegible]を[illegible]を[illegible]を彼男を
[illegible]を[illegible]を[illegible]ふ[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]

暴馬よの底の者のよまれけるに
汝を流石乗手の馬なりと称美
武士の馬なりとてしきりに立教を
これる訓しつ剃るやの鍛のかへ満編ふ
銀しよて丸しり龍の銀守右
しても其外泥障おし掛る立流
なりし是縛きしも泥祖石候の馬
なりしらよ是にて笑くれしく小
祖石の馬よりもなほ驚きて結城候の
好馬よりもなほ汝馬の高よ我しく
どしもじ白鍋とちひら蹈蓋され
甚だ損毛なりて後しもしき世るなと
十数しても茜図よしても是んしと
ひさしかりし持てる頭数を振て
かりげ一同しても十数きんしきると
田野黒是は老ろもとみると

一しを眼もふらず剣をぬき虚と捕へ
みなもとし大男の肩へ喰ひ付
万太しして搔倒し源太と
すらく倒し近付つる百姓
ども是を見るし人々毛散しければ
人くらくうらふく喰ひ殺き
ころくとまき鉄さきまとまず
ゆらる馬としらく暴出しける

毛倒されし喰ひ付又人々を
押倒されし足が腹ろ怪我人
十八七人を及び又ぞ馬をも喰
一さんし田野無さしてんけ
引ける
佐田野里の塩し喰殺されし
くる大男としらふて氷谷が担ぎ
剥れし洞が嶽雲へとしらふ

勇力なりとて
此等慢強の輩ハ以の外
憤ふらせ先としけれ郎従を遣して
奥羽をも討とて伊豆を手懸
多しきのみなりしか百姓京へと切殺し
極悪横道に走り又満りおよび
我が家居を人の目害せられたりけるを
多しく剣に梟首を殺しけり

頼朝卿を害られ猪く掛くの勇力
とても鳥の命しけり蛇葉の花をとげ
されけり情怒背腹して濁しける
此浦が山嶽雲へと関八州よ名は
許さる勇力なりとて近頃氷谷の
指して武十貫を扶持をもられ
しても庄して六年以前後悔の
不当なりとて蕭追勇力無双

[illegible]の[illegible]名[illegible]
[illegible]名[illegible]力[illegible]と[illegible]
[illegible]羽石[illegible]七面山大[illegible]
[illegible]七面山[illegible]船[illegible]
[illegible]七人[illegible]
[illegible]相[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]面[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]水[illegible]
[illegible]の[illegible]雲[illegible]八[illegible]
[illegible]八尺[illegible]六寸[illegible]肥[illegible]
[illegible]
[illegible]源[illegible]
[illegible]七面[illegible]
[illegible]十人[illegible]力[illegible]
[illegible]
[illegible]七面山[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]七面山[illegible]西[illegible]

洞ヶ嶽と栗の宮なる丸双方
ともに建立なる所に有こそふ
河津殿野の者共
見物の人々
おびただしく集る所
七面山と是
申しかとなるべしなる
彼則頼朝武蔵国
なる金の早駒
是則十二代

将軍義澄公
結髪祝の儀と高を切とり双方の
高金と云ふ早駒を切と号して
武士切紙
相合ふ七面山とかたちとち
なし洞ヶ嶽の麓の宮を切相
脇
相殺相模の

ちかの洞が嶽湯
さるし持つる中
釜と猫と投
げたれば七四山の
脊へ乗りて
ゐる七四山是
なるべしまてしば
らくどもかの事と
思ひ人へ
ものの寄せ洞が嶽拔まれ
る者とり外へ飛とび

七四山が猫へ
あるとうけ金剛
かとも大喝一聲おし事ば
七四山うんと踏さらくしる
るん声とも出る
七四山と大儀の外へ
ちづこうづこうさしてゐる
此時見四のとおげ
参る妻者ぐ
泣ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天文十二年癸卯八月廿日久吉日
の城山馬場芳賀郡攻
おの陣をとり
田野城攻とめる
ちゝ陣を進む
しい年殿石谷と大将と
二陣
二番一千の人
婦る山和る書喬一千八百騎人

長陣と大将水谷尾系芝崎郡
入道武千騎人惣郷金七騎
八百騎人ちゝ笑る

富士巻詰巻の八終